令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立与野本町小学校 ）　　学校番号　０７９

【様式】

目指す学校像	凡事徹底の上に“情熱とスキル”をもった教職員が創造的に教育活動を進め子どもたちに確かな生きる力を育む学校

重点目標	
	１　子どもたちが生涯にわたって学ぶ基盤となる主体的な学習態度と基礎学力の育成 ２　どの子も安全安心のうちに学校生活を送り、自分のよさを伸ばし活躍できる教育環境の整備 ３　150 周年を超えた伝統と歴史の重みを生かし、地域に根差し、貢献できる学校づくり ４　教職員それぞれが児童、保護者、地域からの信頼を築き、喜びをもって力を発揮する教育活動

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和５年２月１６日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習習慣や基礎・基本の定着は完全ではない。粘り強く思考し、探究する学習は苦手な傾向にある。全国学力学習状況調査でみると、記述式の問題の無答率が高い。 ○多岐にわたった分野で興味関心が高く、調べたり発表したりする学習に熱心に取り組み、将来のゆめを描くことにつなげられる児童が多い。 ＜課題＞ ○主体的に思考し、探究する学習の機会を意図的に多く設け、粘り強く取り組んだ結果の成功体験を味わわせる。 ○STEAMS 教育を推進させ、児童の興味関心の強さを生かした学習スタイルを取り入れていく。 ○読解力と記述のスキルを習得させる。	○国語力（特に読解力）の向上	○国語をはじめとした教科の指導はもとより、児童の言語環境を整え、それぞれの児童の語彙を増やすことを意識して、「読む・書く」指導に力を入れていく。 ○学びのポイント（じ・し・ゃ・ク）を意識して ICT を活用していく。	○国語科において「読解力」を意識した指導方法についての授業研究や研修会を経て、全教員が日々の授業実践のスキルを上げているか。 ○教職員の意識の向上及び語彙力、表現力の向上が図れたか。	○NIE の委嘱を受けて新聞を活用して主体的に読み、互いの感想や意見を交流することでさらに理解を深めていく学力を身に付けさせた。 ○ICT を活用した授業の工夫改善が図られ、児童が意欲的に学習に取り組み、主体的な学びで確実に学力を向上させている。	A	○児童の読解力をはじめとする国語力の向上について、与野本町小における新聞を活用した学習形態のスタンダードを確立する。	○校長先生の思いを受け止めて、保護者、地域は学校を応戦したいと考えている。 ○規律ある学校生活の中で、子どもたちはよくがんばり、成果をあげている。 ○先生方も熱心に指導し、子どもたちから慕われ、信頼されているからこそ、教育的成果があがっていくことがわかる。
		○全国及び市の学力・学習状況調査の結果分析	○全国及び市の学力・学習状況調査の振り返りの授業を校長が行い、全教職員が参観する。 ○学力調査等の問題及び結果について校内で研修会を開き、指導方法の工夫改善について検討する。 ○SSSP を推進し、個別最適な学びについて常に検証する。学年全体で学年の全児童の学力について分析する。	○全国及び市の学力・学習状況調査の問題及び結果についての校内研修会を開催し、全職員が児童の学力や学習の状況を知り、今後の指導方法の工夫改善に向けて考えることができたか。	○全国学力・学習状況調査の自己採点をさせる際に国語については校長が解説を行い、全職員がそれを参観した。これによって付けさせたい国語の力について全職員が改めて認識し、日々の授業における発問や学習活動の設定に生かすことができた。 ○SSSP に関する教職員の校内研修を複数回もち、理解を深めると共に、互いの指導方法の工夫改善に役立てる協議が行えた。	A	○ICT を活用した授業の工夫改善について、研究を進め、どの教職員も遜色なく取り組める本校の状態を確立する。 ○児童の多様性について共通理解を図り、個別最適な学びを一層推進させる。	
2	＜現状＞ ○４年間の大規模改修を経て、校舎は故障箇所が少なく、美しく機能的に保たれている。 ○児童の大半は、学校に楽しく通っており、完全に不登校の児童は０である。 ○発達に特性のみられる児童が少なくないが学年が進むにつれ、課題解決が進んでいる。 ○いじめなどのトラブルは早期に解決し、その後の見守りや見届けも確実に行っている。 ＜課題＞ ○教職員による点検の徹底と児童の安全への意識や環境美化に取り組む主体的な態度を育てる。 ○児童それぞれの特性や状況を把握し、悩みを相談できる環境を整え、いじめやトラブルを見逃すことなく、適切な助言や支援を行っていく。 ○一人ひとりのよさを認め、伸ばすと共に、学校のルールやマナーを身に付けさせる。	○施設、設備の点検結果 ○不登校傾向児童の登校日数 ○保護者による学校評価	○報告、連絡、相談、確認、見届けを励行し、迅速な対応を心掛ける。 ○教職員全員で情報を共有し、児童理解のために様々な情報を出し合い、共通理解を図る。	○職員、児童ともに、施設の整備や環境美化への高い意識をもち、安全で快適な環境を保持することができたか。 ○学年、学校が様々な情報を整理して共有し、校長の示す方針のもと、共通理解、共通行動を図ることができているか。	○市教委へ申請し、校庭の古い木の大幅な伐採を進めた。これにより倒木の危険の回避、落ち葉による排水管等の詰まりや近隣への被害等を軽減することができた。 ○校庭の砂の入れ替えを行い、児童がより安全安心な状況で活動できるようにした。 ○不登校傾向の児童に対して個に応じたきめ細かい対応の方針を掲げ、共通理解のもと共通行動が行えた。児童の大半は学校生活に喜びと目標をもって過ごし成果をあげている。	A	○古木の伐採については、引き続き検討し、計画的に進めていく必要がある。 ○不登校傾向の児童と家庭へのアプローチの仕方について、管理職をはじめ教職員間で常に情報を共有し、より効果的な対応について模索していく。	○大規模改修を経て、地域やＰＴＡも協力し、学校の整美が保たれている。 ○子どもたち、保護者、地域で草取りやごみ拾いなどの活動をもっとやっていきたい。 ○ハード面、ソフト面ともに教育環境が整い、子どもたちは心身ともに健やかな状態で学校に毎日元気に通っているといえる。一方で、個別に対応が必要な場合も増えており、いじめ防止をはじめ、子どもたちの悩みやトラブルの芽を見逃さず、教職員が組織的に対応し、あたたかくきめ細やかに見守ることが必要とされている。校長を中心に研鑽を積んで、さらなる指導力向上を目指してほしい。
		○いじめ案件への迅速、確実な対応 ○見守り、見届けの徹底 ○未解決０の常態化	○校長のリーダーシップのもと、方針を定め、共通行動を徹底させる。 ○生徒に関わる案件について「ヒアリングシート」を作成し、厳重に保存しながら活用していく。 ○教育相談を充実させるために、保護者が学校に相談しやすい雰囲気を作るとともに、保護者の声を丁寧に受け止め、誠実な対応をしていく。	○いじめの芽となる案件を軽んじることなく丁寧に指導し、事後の経過観察も徹底できているか。 ○ヒアリングシートを正確に作成し、情報の共有及び指導の参考に活用できているか。 ○管理職は、時期を捉えて保護者への説明責任を果たしたり、面談を行ったりできているか。	○教職員からの報告、連絡、相談を徹底させ、情報を整理し、指導の方針を迅速に提示した。いじめ案件は必ず保護者への連絡と事後の見取りを確実に行い、状況によっては管理職が保護者や本人と面談した。 ○どのような事案でも記録を正確に取り、厳重に管理し、中学校進学までを見据えて情報共有を児童理解に役立てている。	A	○非行問題行動の著しく少ない現在の状況に甘んじることなく、予防的に児童を指導する機会を設けていく。 ○いじめの大小に関わらず、真摯に向き合い、危機感をもって対処していく。 ○管理職をはじめ教職員が保護者、地域から信頼され、相談しやすい風土を作っていく。学校評価で明らかになった課題については迅速に解決を図る。	
3	＜現状＞ ○児童は、昨年度開校 150 周年の記念事業を通して、自校の伝統と歴史の重みを実感し、支えてくれる地域への感謝や敬意をもつに至った。 ○地域は、代々本校の卒業生である方々が多く、母校を誇りに思い、協力や支援を惜しまない。 ○さいたま市 10 区の中の中央区は一番小さい区だが、市のコミュニティ課と芸術劇場が連携協力して“芸術のまち”として特色がある。 ＜課題＞ ○地域の中にある学校として、地域の中に出て、地域を盛り上げることができる教育活動を展開する。 ○公共施設一体型の特色を生かした活動の機会を増やし、児童が広く社会に目を向け、未来への明るい展望を描けるようにする。	○学校の情報提供 ○教育活動公開の機会設定	○毎月末に発行する「学校だより」は、地域に学校の状況や情報を十分知らせることができるように工夫する。 ○運動会や音楽会をはじめ、地域に公開し、参画してもらえる行事を企画していく。	○「学校だより」の巻頭言は、学校の方針を明らかにしながら、教育活動の様子を伝える役割を果たしているか。 ○運動会や音楽会の本校のスタンダードな形を確立すると共に、児童、保護者、地域に満足してもらえる内容にできたか。	○「学校だより」の巻頭言では、引き続き学校の状況や児童の様子が伝わる内容を意識した。これにより保護者、地域の方々の学校への理解が進み、支援が得られた。 ○運動会は半日開催で人数制限なしとし、音楽会は人数制限を設けて入れ替えはなしとする形が定着しつつある。	A	○コロナ禍でスリム化された運動会や音楽会の形がアフターコロナとなって、そのよさを見極めながらもより教育の質を落とさない方向で精査していく。	○ニコニココンサート（音楽会）はとてもすばらしかった。子どもたちの成長が感じられる。 ○どの行事でも先生方が子どもたちといっしょにがんばっていることが。うかがえる。 ○学校評価で、自分本位な意見も出るが、概ね学校に理解を示し、協力的である。 ○保護者による学校評価で疑問点が出た場合は丁寧にせつめしていくことが大切である。
		○地域との交流の機会設定 ○地域の行事に参加	○児童が交通ルールやマナーを守る態度を向上させ、合わせて感謝を込めたよいあいさつができるように日頃から意識付けを行う。 ○芸術劇場で新しく企画している「さいたま盆踊り」に学校をあげて参加し、地域を盛り上げる意識を向上させる。 ○与野西中学校と連携した、美化活動やあいさつ運動を行う。	○児童の挨拶を励行する意識と実践状況は向上しているか。 ○地域の行事に積極的に参画し、交流することで、視野を広げたり、自己の生き方について考えたりできる児童に育っているか。	○挨拶の励行を呼び掛けるプロバスケットブロンコスの選手と朝会の中で交流し、挨拶の大切さについての認識を深めさせた。 ○本校地域交流室で行う体操教室の高齢者の方々を給食や音楽会に招待し、真心と礼儀をもって接することを実践した。高齢者の方々には大変喜ばれ、地域の中の学校としての役割を果たした。 ○与野西中生と６年生で地域の清掃活動行った。	A	○「地域と共にある学校」としての伝統と役割を忘れることなく、児童が感謝や敬愛の気持ちをもって地域を考えることができるような場面を設定していく。同時に地域から愛され、支援される学校となるように、積極的に地域と関りがもてるように心がける。	
4	＜現状＞ ○教職員の年齢構成で、50 代が少ない。 ○ICT の活用や教科担任制については、良く取り組み、スキルの習得など全体的に進めている。 ○在校時間超過を削減する認識が足りない。 ＜課題＞ ○経験を積んだベテラン教員ならではの細やかな視点や手間をかけた指導を若手に伝えていく。 ○ICT の活用や教科担任制をどの教員にも浸透させるための研修等を引き続き充実させる。 ○在校時間超過解消への意識を高め風土を作る。	○人事調書のアンケートにおける業務の負担及び職場環境についての回答 ○気軽でためになる相互研修の風土づくり	○教職員一人ひとりがやりがいと情熱をもって日々の職務にあたれるように、対話を大切にし、評価や励ましの言葉をかけていく。 ○会議の時間を減らし、教材研究や相互研修などの時間を作る。 ○教職員の状況を把握し、事情や悩みを抱える場合は適切に支援していく。 ○「ノー残業、ノー会議、完全退勤」を月に１回実施する。	○教職員相互の関係が良好で、互いに切磋琢磨しながら、やりがいとエネルギーをもって職務にあたる風土となっているか。 ○会議のもち方を工夫し、働き方改革を進め、職員が負担軽減を感じることにつながったか。 ○管理職から職員への配慮や支援は適切に行えたか。 ○定時退勤実行への感覚や意識が広まったか。	○教職員のチームワークがとてもよく、難局を乗り越え、教育活動に成果をあげた。 ○子育て世代の教職員が多いが、互いに助け合って効率よく仕事を進めている。 ○超過在校時間の取組を進めているが、今年度は「完全ノー残業デー」の日を何日間か設けることができて昨年度より進歩した。 ○会議の時間を確保する特別日課を設け、働き方改革を進めることができた。 ○管理職は常に教職員とコミュニケーションをとり、様々な状況を把握している。	A	○教職員の健康や仕事の状況を見極めるために日常の対話をゆたかにもち、心身の状態を良好に保てるような情報提供や助言を行っていく。 ○働き改革の推進のための具体的な取組として「完全ノー残業デー」を毎月確実に実施する。	○小学校は先生の数がぎりぎりの中でよくがんばっている。一年間で教育の成果が感じられる。 ○ＩＣＴ化が進んで目を見張るものがあるが、アナログのよさも見失わないでほしい。 ○教職員の働き方改革が進んで先生方も心身共に健康でがんばってほしい。（人材の確保が急務）